

はまみだいらちく せいかつぼうさいきよてん
浜見平地区における生活防災拠点としての
りべんせい あんぜんせい こうじょう
利便性・安全性の向上 その2
(第1回変更)

ちがさきし
茅ヶ崎市

平成31年1月

社会資本総合整備計画

平成 31 年 1 月 18 日

計画の名称	浜見平地区における生活防災拠点としての利便性・安全性の向上(その2)		
計画の期間	平成27年度 ～ 平成31年度 (5年間)	交付対象	茅ヶ崎市
計画の目標			

浜見平団地の建替に伴い、緑地、道路の整備を行い、生活・防災拠点として安全・安心なまちづくりを行う。

計画の成果目標 (定量的指標)

- ・松尾川の緑道化整備に伴う満足度アンケートを通行者に対して実施 (満足度：36.5%→70%)
- ・左富士通り及び鉄砲道の電線地中化及び道路整備に伴う満足度アンケートを通行者に対して実施 (満足度：35.4%→70%)

定量的指標の定義及び算定式

松尾川雨水幹線の暗渠化及び緑道化を行い、通行者に対して整備に関する満足度アンケート調査を行う。

左富士通り及び鉄砲道の電線地中化および道路整備を行い、通行者に対して整備に関する満足度アンケート調査を行う。

定量的指標の現況値及び目標値			備考
当初現況値 (H27当初)	中間目標値 (H29末)	最終目標値 (H31末)	
36.5%	50%	70%	
35.4%	50%	70%	
全体事業費 合計 (A+B+C) 327,690千円 A 327,690千円 B 0円 C 0円			効果促進事業費の割合 (A (提案分) + C) / (A+B+C) 0.0%

交付対象事業

A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (千円)	備考
									H27	H28	H29	H30	H31		
1-A-1	住宅	一般	茅ヶ崎市	直接	茅ヶ崎市	浜見平地区住宅市街地総合整備事業	緑道化 417m 電線地下埋設 259m 道路整備 555m	茅ヶ崎市						327,690	
合計												327,690			

B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H27	H28	H29	H30	H31		
合計															

番号	一体的に実施することにより期待される効果													備考
----	----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

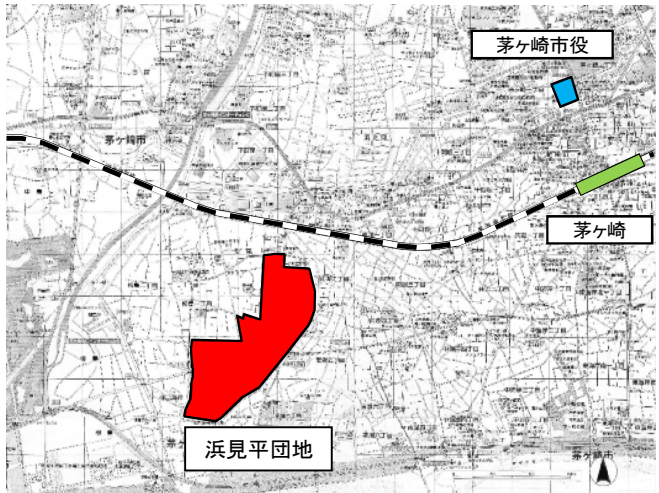
C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H27	H28	H29	H30	H31		
合計															

番号	一体的に実施することにより期待される効果													備考
----	----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

(図面) 地域住宅支援

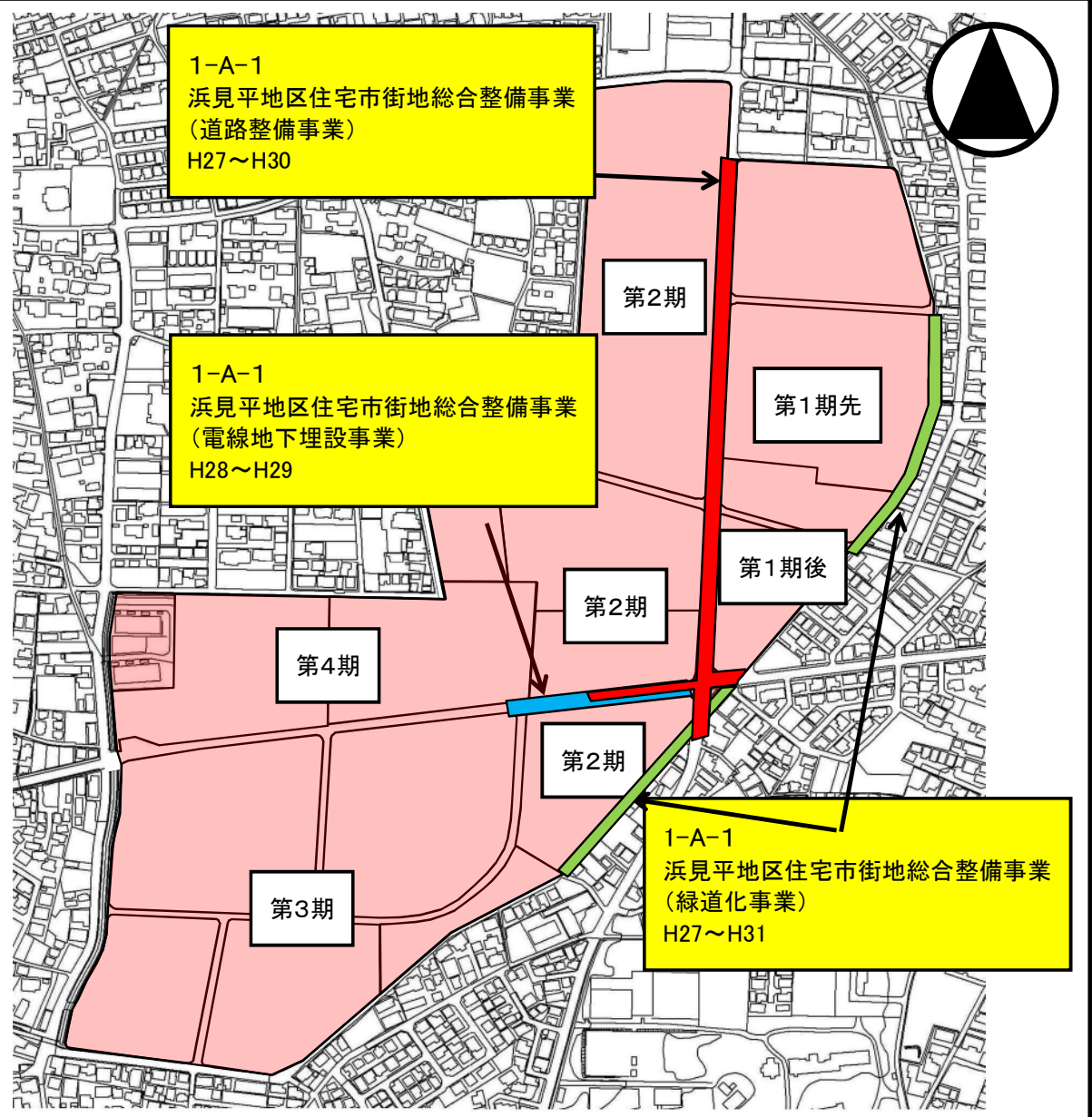
計画の名称	浜見平地区における生活防災拠点としての利便性・安全性の向上 (その2)		交付対象	茅ヶ崎市
計画の期間	平成27年度 ~ 平成31年度 (5年間)			

【浜見平地区】



凡例

- 基幹事業
- 団地建替範囲



社会資本整備総合交付金チェックシート

計画の名称：浜見平地区における生活防災拠点としての利便性・安全性の向上(その2)

地方公共団体名：茅ヶ崎市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①上位計画等との整合性	
1)総合計画及び都市マスタープランへの位置づけがある。	○
2)その他の計画への位置づけがある。(浜見平まちづくり計画・浜見平地区デザインガイドライン等)	○
②地域の課題への対応(地域の課題と整備計画の目標の整合性)	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置付けが高い。	○
II. 計画の効果・効率性	
①整備計画の目標と定量的指標の整合性	
1)数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
②定量的指標の明瞭性	
1)松尾川雨水幹線の緑道化の整備	○
2)電線地中化の整備	○
3)幹線道路及び歩道の整備	○
③目標と事業内容の整合性	
1)数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
④事業の効果(要素事業の相乗効果等)の見込みの妥当性	
1)少子・高齢化社会への対応を図っている。(バリアフリー化の実施)	○
2)広域防災拠点としての対応を図っている。(緑道・道路等の整備)	○
III. 計画の実現可能性	
①円滑な事業執行の環境(事業熟度、住民等の合意形成等を踏まえた事業実施の確実性)	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高く、住民等の合意形成を踏まえている。	○
②地元の機運(住民、民間等の活動・関連事業との連携等による事業効果発現の確実性)	
1)事業実施にあたり、都市再生機構との協議を行い、連携を図っている。	○

交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	H31
配分額 (a)	12.810	31.314	0	48.606	13.200
計画別流用 増△減額 (b)	0	0	0	0	0
交付額 (c=a+b)	12.810	31.314	0	48.606	13.200
前年度からの繰越額 (d)	0	3.294	24.425	0	48.606
支払済額 (e)	9.516	10.183	24.425	0	58.906
翌年度繰越額 (f)	3.294	24.425	0	48.606	0
うち未契約繰越額 (g)	0	11.586	0	0	0
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0	0	2.900
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	33.5%	0.0%	0.0%	4.7%
未契約繰越+不用率が10%を超えている場合その理由		神奈川県警察との交通協議に不測の日数を要し、年度内に発注することができなかったため。			